

同じ年のみの～れはサードプレイス



チームBIRDの森

いわ た れい か
岩田麗加さん

みの～れと共に生活するスタイル
Minole Life
のすすめ No.196

天高くのぼる竜に守られる辰年は、強運やお金に困らない年と言い伝えがあるそうです。今年も穏やかに暮らせる年になるといいですね。今回は、チームBIRDの森のメンバーで小美玉市美野里地区にお住まいの岩田麗加さんを紹介します。

幼いころから そばにあった

「みの～れと同年です」と話す岩田さんは、4月から新社会人。みの～れの思い出を聞いてみると「保育園の時、市民文化祭の作品を観に家族で来たことを覚えています。小学1年から始めた新体操の発表会、さくらフェスや野外映画にも家族で来ました。芝生広場の山の上で見た星がきれいでしたね」と懐かしそうに振り返ります。「小学生の時、みの～れの学校アクティビティ事業で、尺八・琵琶奏者の長須与佳さんが音楽室に来てくれて、尺八の体験をする事ができたのも印象に残っています」と岩田さん。

うした背景もあり、大学3年の夏、インターンシップ（就業体験）先にみの～れを選びました。取材を体験した際に「小池伸二さん、瀧澤比佐乃さんが『みの～れは自分が輝ける場所・みんなが輝ける場所・市民が主役の場所だ』とイキイキ語っていて、ここまで愛されるみの～れが本当に凄いと思いました」と岩田さん。インターンシップが終わってからもの～れに関わりたいたいと思い、チームBIRDの森に加入。「会議で私の意見を求めてくれたり受け入れたりしてくれています。みの～れが大切にしている対話の文化が取り入れられているんですね」と嬉しそう。たくさんの子どもたちがやってくるBIRDのイベントで運営スタッフを務めたこと。岩田さんは、真剣にぬりえをしている子どもたちに話しかけてはいけないと

思っていたそう。BIRDクリエーター大嶽一省さんが「はみ出したっていいじゃない」「枠にはまらなくていいよ」「すごいね」など話しかけることで、子どもたちが夢中になってどんどんぬりえをぬっていく姿に「大人の常識に捉われてはいけないということを学びました」と体験を語ってくれました。

岩田さんにとってみの～れは「大切なサードプレイス。これからも会議やイベントにも参加したいと思っています。学生時代から関わっているのでもの～れ自体がサークルみたいな感じですね」とこり。

小学生の頃からずっと目指していた仕事に4月から就く岩田さん。「困っている人になんと手を差し伸べてあげられる存在でいたい」と話します。いつも笑顔の素敵な岩田さんをこれからも応援しています。（藤田佐知子）